

**CODE 海外災害援助市民センター**  
**2014年度 事業計画**

**【1. 海外災害(地)への救援活動事業】**

事業名	1-(1) アフガニスタン救援プロジェクト(ぶどう畑再生支援事業)
実施日時	2003年～継続中
実施場所	アフガニスタン・カブール州ミールバチャコット県
受益対象者の範囲及び予定人数	ミールバチャコット地域の4村。人口は約15,000人、1560世帯。 これまで本事業の融資で直接裨益した農業従事者は537世帯(2013年6月時点)。
実施内容	<p>●これまでの経緯</p> <p>2003年から上記4村でコーポラティブシューラ(ぶどう生産者協同組合)を立ち上げ、300万円を原資として288世帯への融資をスタートした。この融資を利用した農家は2013年3月までに、延べ531世帯となっている。収穫量が増える一方、主要な市場であったパキスタンへの輸出が2010年頃から閉ざされてしまい、販路の開拓が最大の課題となっている。2012年には、インド市場開拓のために協同組合員とCODEからのデリー訪問を計画したが、有力な候補先の情報が得られず、先送りとなった。</p> <p>2013年に10周年シンポジウムに来日したラフマンさんによってアフガニスタンの未だ厳しい状況が語られ、継続的な支援の必要性が再確認された。CODEは、(特活)日本フェアトレード委員会と連携し、日本でのレーズン販売を行う。試験的にアフガニスタンからレーズンを20kg送ってもらい、11月に日本に到着し、検疫を経て無事入手する事が出来た。</p> <p>●2014年度の計画</p> <p>同4村からぶどう農家を招き、2007年から2009年までの3年間に有機によるぶどう栽培を学んだことがやっと実を結んだ。このミールバチャコット産の有機レーズンを日本で販売する。そのレーズンを活用して積極的にアフガニスタンの現状を発信し、これまで支援して下さった方々に呼びかけると共に新たな支援者の拡大をねらう。</p> <p>① ミールバチャコット産有機レーズンの日本での販売</p> <p>(特活)日本フェアトレード委員会(熊本市)の協力のもと、レーズンの輸入、販売を行う。これを契機として日本の支援者の関心をさらに高めることにより、まず年間の現地固定管理費(8400ドル)を賄う。</p> <p>現在、40kgの輸入を準備しており、6月末に到着予定である。今後、300kg/年を目標に輸入する。</p> <p>② レーズンを契機にしたアピール</p> <p>輸入したレーズンを契機にぶどうオーナーなどに呼びかけ、販売促進に関するイベントなどを開催し、より深い理解を求める。</p> <p>③ 「れーずんの会」などでレーズンを食べながらアフガニスタンを知ってもらい機会を作り、レーズン販売などにも協力してくれる人を増やす。</p> <p>第1回 れーずんの会(3月28日 参加者18名) *終了</p>

	<p>第2回 れーずんの会(4月25日 開催予定)</p> <p>④ 同志社大学の留学生 Ahmad や JIPPO(京都市)も販売などの協力をお願いする。</p>
--	--

事業名	1-(2) 中国・四川省地震救援プロジェクト
実施日時	2008年5月13日～継続中
実施場所	四川省地震被災地域
受益対象者の範囲及び予定人数	四川省北川県光明村村民約700名および周辺住民
実施内容	<p>●これまでの経緯</p> <p>地震発生後、最初に実施しようとした支援プロジェクト「総合活動センター」(医療施設等を含む)は、中国政府によって建設されることになったため、村の方々と協議の上この計画を変更し、「老年活動センター」の建設が決定した。2010年11月に芹田代表が出席して同センター建設のための調印式が行われ、2011年9月、無事完成した。</p> <p>2012年には、センター内部の天井板の設置やニスの塗装を行い、高齢者を中心に村民に利用されてきた。その後、センターの維持管理のためにアグリツーリズム「農家楽」の拠点として活用されているが、集客や住民参加などの課題も抱えている。2013年度には北京より農家楽の専門家を招へいしてワークショップを開催し、約40名の住民が参加した。</p> <p>現在、センター前の蓮の池を使った釣堀には毎日約20名の観光客が来ていて、少しずつではあるが、センターの運営も軌道に乗ってきている。</p> <p>●2014年度の計画:</p> <p>① 老年活動センターの運営</p> <p>上述のように専門家によるワークショップを開催し、村民委員会が合作社(協同組合のようなもの)の設立する事に言及した。これにより住民参加が容易になると見込まれる。CODEは今後もセンターの動向を見守り、状況に応じて支援を行う。</p> <p>② CODE 2”(中国版 CODE のような組織)の構想</p> <p>CODE2の構想は、提案者の四川復興管理学院の顧林生氏と協議中であるが、雅安地震(2013年4月)を機につながった中国最大のNGOのひとつ「壹基金」やJICA北京、顧林生氏と引き続き可能性を探る。これによって災害時には、CODEの現地カウンターパートとなりうる。</p> <p>③ 現地NGOとのネットワークとの交流・研修</p> <p>今後のアジアでの災害時の連携を強化するために、また、現在の日中関係悪化の中でも確実に民と民でしっかりとつながっておくためにも、現地NGOとのネットワークを意識的に深めていく。具体的には、中国やフィリピンなどのNGOの担う若者の交流・研修を通じて、日本と中国の人的な交流を進めていく。</p>

事業名	1-(3) ハイチ地震救援プロジェクト
実施日時	2010年1月13日～継続中
実施場所	ハイチ共和国レオガン
受益対象者の範囲及び予定人数	レオガン周辺住民
実施内容	<p>●これまでの経緯</p> <p>地震直後より、様々な支援活動を行ってきた(2012年度事業報告参照)。2012年度の展開として、「GEDDH」の農業技術学校の支援が決定した。GEDDHは、ハイチで結核治療に取り組んで来た日本人医師、シスターの須藤昭子さん(クリスト・ロア宣教修道女会)の設立したグループであり、CODEは須藤さんと2010年に出会っている。そのときGEDDHの農業を支援する話が出ていたが、2011年に先方から辞退の申し入れがあったため一端白紙に戻した。2012年8月の訪問前に再びその話が持ち上がり、現地でシスター須藤とGEDDHとのミーティングを経て、農業技術学校の建設を支援することが決定した。その後、顧問会の一員であるGEDDHとハイチ大司教会の間で土地契約に関する問題が生じ、建設が一時中断した。シスター須藤や Bourget 氏(カナダの農業専門家)、在ハイチ日本大使館の方などの協力により両者の調整を行い、2013年12月に新たな契約書が交わされ、ようやく建設が再開される目途が立った。現在、顧問会の一人であるカナダの Sylvio さんが、ハイチで再開に向けた調整を行ってくれたので、その詳細な報告を受け次第、2度目の送金を行う。</p> <p>●2014年度の計画</p> <p>ハイチの貧困状況からみても、CODEは農業技術学校の建設のみにとどまるのではなく、今後も学校を見守っていかなくてはならない。具体的には、中断していた農業技術学校の建設再開を確認後、日本大使館による机、椅子などの設備提供の調整を行う。そして、かねてからの課題である学校の運営資金(2年分)の目途をたてる。現在のところ、シスター須藤の地震後に集まった寄付金や災害看護機構の支援金などで1年半分ぐらいの運営資金の目途は立っているが、残りの100～150万円が未確定である。引き続きCODEも今後の運営資金を検討する。具体的には、学校の開校(9月予定)後、これまでの寄付者などに呼びかけ支援金を呼びかける。日本に帰国されたシスター須藤の講演会を学校の開校に合わせて開催し、入場料の一部を学校の運営資金とする。</p> <p>*5月28日 シスター須藤と講演会の打ち合わせ(東京)(吉椿事務局長)</p> <p>*9月23日 シスター須藤をお招きした講演と対談(芹田代表理事)</p>

事業名	1-(4) 中国・青海省地震救援プロジェクト
実施日時	2010年4月14日～継続中
実施場所	中国青海省玉樹県の被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	青海省540万人、玉樹チベット族自治州人口28万人、玉樹県10万人
実施内容	●これまでの経緯:

	<p>四川省に滞在中であったスタッフ吉椿を2度青海省に派遣し、同省玉樹で最大かつ最も古いNGOのひとつ「江源発展促進会(Snowland Service Group, SSG)」とのネットワークを築いた。並行して、青海省のラブ地域の僧院と連携して環境問題に取り組んでいるインドネシア人アーティスト、アラフマイアニ・フェイサルさん(イアニさん)とも情報交換をしながら連携を模索してきた。具体的には、青海省での支援プロジェクトとしてこの地の暮らしにとって重要な家畜であるヤクを購入し、繁殖させ、後に換金動物として育てる事業「ヤク銀行」を実施することを追求してきた。2012年8月に吉椿が現地へ赴き、ラブ寺院の僧侶やヤクのドクター、イアニさんと「ヤク銀行」の可能性について協議した。その後、現地で僧侶、ヤクのドクター、住民、遊牧民などが入った「ヤク銀行委員会」が成立した。2013年度には「ヤク銀行委員会」に送金し、ヤクを購入し、貧しい遊牧民に優先的に提供された。</p> <p>●2014年度の計画: 2013年に被災した遊牧民にヤクが提供された。だが、厳寒な天候や病気等により死亡したヤクも出てきている。現地の通信状況の悪さが原因で、その後の状況が不鮮明な事も少なくない。8月頃に四川支援と合わせてモニタリングに行き、現地の詳細な状況を把握し、積極的に発信する。今後もヤクの生育状況や遊牧民の生活状況を見守っていく。</p>
--	---

事業名	1-(5) インドネシア・ジャワ島中部地震救援プロジェクト(通称:呼び水プロジェクト)
実施日時	2006年5月27日～継続中
実施場所	インドネシア・ジョグジャカルタ特別州グヌンキドル県 パンガン郡ギリセカール村内のナワンガン集落
受益対象者の範囲及び予定人数	直接的な対象者はナワンガン集落の住民約130名だが、モデルケースの確立により、自然条件・経済的条件の類似した周辺住民(ギリセカール村7000名、パンガン郡2万7000名)が裨益すると考えられる。
実施内容	<p>集落では、CODEが支援した水道支管により、従来の水道料金より安くなった分を水組合の基金としている。住民は基金からの融資によってヤギ飼育を行っており、これが住民の間で広く利用されるようになってきている。仕組みとしては子ヤギを購入する資金を組合が融資し、育てて販売したときの利益を組合と飼育者で折半するというものである。このような住民の動きに関して現地キーパーソンを通して情報収集を続ける。</p> <p>CODEのカウンターパートであるエコ・プロワットさんが多忙なため、住民としっかりとした関係を作っている神戸学院大学の浅野壽夫教授(CODE正会員)たちを中心にこのプロジェクトを継続し、CODEはそれを支援していく。</p> <p>2011年～2013年まで浅野教授の授業「海外研修」にスタッフが同行させていただいているが、今年度も同様に継続した関わりを追求していく。</p>

事業名(新)	1-(6) 東日本大震災救援プロジェクト
実施日時	2011年3月14日～継続中
実施場所	東日本大震災被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定

実施内容	<p>●これまでの経緯</p> <p>2011年度には、CODE発足以来連携している被災地NGO協働センターの活動を人的・資金的に支援した。</p> <p>CODEとしては、2012年3月末に金沢大学と連携し、中国・四川省から被災者3名、カウンターパート1名を招聘し、東日本の被災地への訪問と交流を行ったほか、神戸でもCODE関係者などとの交流会を開催した。2013年2月には、CODE10周年記念シンポジウムのために招聘したアフガニスタン、中国・四川省、ハイチのゲスト3名に東日本大震災の被災地を案内し、被災者どうしの交流と情報交換を行った。</p> <p>●2014年度の計画：</p> <p>2013年11月にフィリピンで発生した台風災害で日本とフィリピンとの交流の深さを知った。民間の支え合いの連鎖は確実に広がった事を受けて、CODEは、海外と東日本の被災地等をつなぐ役割を再度見直していく。そのためにも東日本大震災の状況なども英語で発信していく。またHPの英語サイトも充実させていく。</p> <p>フィリピンのNGOや漁民と東日本大震災の被災地との交流事業も検討する。</p>
------	--

事業名(継続)	1-(7) メキシコ暴風雨救援プロジェクト
実施日時	2013年9月11日～継続中
実施場所	ゲレーロ州 Cerro Timbre、El Ahuejuyo、San Miguel Amoltepec
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>●これまでの経緯</p> <p>ハリケーンと熱帯低気圧の同時発生によって多くのエリアが被害を受けた。メキシコの内務大臣によると国土の3分の2が被災したという。すぐにメキシコシティ在住のCODE海外研究員、クワテモック氏と連絡を取り、救援活動を開始したが、世界的にも報道は少なく、CODEへの寄付金も約20万円のみであった。クワテモック氏は、現地の若者グループ Guerreros por la montana と共に食糧の配布などを行い、現在も被災地で小規模な支援を行っている。また日本人旅行者の花田さんも先述のグループと共に活動し、CODEへ情報を提供してもらった。</p> <p>現在、クワテモック氏からの情報では、被災者へのワークショップや子どもへの寄り添い支援を計画しているという。それにもとづき支援を継続する。</p>

事業名(継続)	1-(8) フィリピン台風 Haiyan 救援プロジェクト
実施日時	2013年11月8日～継続中
実施場所	セブ島北部、バンタヤン島
受益対象者の範囲及び予定人数	セブ島北部、バンタヤン島などのバラングイ(最少行政単位)の漁師や女性 約1000人
実施内容	<p>●これまでの経緯</p> <p>2013年11月、観測史上最大級と言われる台風 Haiyan(現地名 Yolanda)は、フィリピン中部のレイテ、サマル、セブ、パナイなどの島々に甚大な被害を引き起こした。CODE</p>

は、直後より救援活動を開始し、安全性やアクセス、規模などを考慮し、スタッフをセブ島、パナイ島へ派遣し、調査と少量の物資配布などを行った。その後、2014年1月末に再度訪問し、現地 NGO ネットワーク「ABAG Central Visayas」へのヒアリングを行い、具体的なプロジェクトのサイトやカウンターパートの可能性を探った。加盟団体である NGO、SPFTC (Southern Partner Fair Trade Center)、FIDEC (Fisherfolk Development Center) や漁師でつくる団体 PAMANA を通じてセブ島北部やバンタヤン島でボートや漁網などを提供する漁業支援を決定した。

また、漁村における女性の役割の重要性やこの NGO ネットワークの加盟団体が被災地でグループ (Association) を組織し、自立支援を行っている事などから女性の自立も視野に入れた漁村コミュニティーの支援も目指し、現地 NGO としっかとした信頼関係を築く。

2014年3月に静岡の連携団体である「ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク」の方と吉椿がフィリピンを再訪し、現地 NGO と協議し、具体的な調整を行った。CODE の寄付金約 300 万円を使って、セブ島北部、バンタヤン島の 6 つのバラングイ (最小行政単位) にボートを提供し、3 世帯の漁民で 1 つのボートを共有する。ボートの種類、数、共有方法などの詳細は、現地 NGO ネットワーク「ABAG Central Visayas」と住民組織 (Association) が協議しながら決めていく。

●2014 年度の計画

現在、NGO ネットワーク「ABAG Central Visayas」の加盟団体である SPFTC や FIDEC が、被災地の 6 つのバラングイの住民組織 (Association) とこのプロジェクトの進め方の協議を行っている。ボートの種類、数、共有方法などが決まり次第、送金し、ボートを漁民に提供する。

ボート提供と同時に、現地 NGO からの提案で住民教育のワークショップも行い、このボート共有を通じて住民同士が如何に支え合っていくかを学び合う機会を作る。

また、NGO 大国であるフィリピンから住民参加、女性のエンパワーメント、NGO と社会の関わりなどをしっかりと学び、日本同様に災害の多いフィリピンと今後の災害に向けた関係を構築していく。そしてフィリピンと東日本大震災の被災地同士の交流を通じて、漁業、集団移転、女性などの世界共通の被災地の課題を共に考える。

今後の予定

- 4月19日～ Sさん(神戸大学学生)がセブ島に留学(1か月)。  
その後、現地 NGO と被災地のモニタリングなどの協力を行ってもらう。
- 5月27～30日 国境なき災害支援隊の図書館プロジェクトのアテンド(上野)  
LapuLapu(早稲田大学を中心とした学生サークル)のボホール島での  
住宅再建支援の協力(吉椿事務局長、上野)
- 6月4日 ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク(静岡)での報告(村井)  
\* 50万円の追加支援を決定。
- 8月中～9月(未定) 北陸学院大学学生のボランティアワークのコーディネート(吉椿事務局長)  
・東日本大震災の被災地との漁業交流  
・コープこうべでの報告会  
・バロントラベル(大阪)関連の修学旅行の事前学習

事業名(継続)	1-(9) アフガニスタン地滑り救援プロジェクト《新規》
実施日時	2014年5月2日～継続中
実施場所	アフガニスタン北東部バタフシャン州アルゴ郡アーブバリーク村
受益対象者の範囲及び予定人数	約1400人
実施内容	<p>●これまでの経緯</p> <p>2014年4月末よりアフガニスタン北部で降り続いた雨によって洪水などの災害が連続的に発生している。5月2日にはバタフシャン州で大規模な地滑りが発生し、503名がなくなった。水害、地滑りは、アフガニスタン北部14州で死者666名、倒壊家屋約1900棟、被災世帯12967世帯に上る。</p> <p>CODEは、2003年よりアフガニスタンのぶどうプロジェクトを実施してきた。(＊1-(1)のアフガニスタン救援プロジェクトを参照)現地カウンターパートのラフマン氏との長期的な関係性からこの地滑り災害への支援を決定した。</p> <p>州政府や国連によって食糧、テント配布などの支援活動は展開されているが、避難キャンプでは自分たちで食事を作る調理器具が不足していることから、ラフマン氏たちが地元で呼びかけた少額寄付を使い、鍋やポットなどの調理器具の提供を始めた。CODEはラフマン氏たちの活動をサポートすべく「キッチン道具を贈ろう」と寄付を呼びかけた。</p> <p>だが、日本での報道がほとんどないことから寄付はほとんど集まっていない状況(6月初め時点で約19万円)にある。今後、引き続き寄付を呼びかけ、ラフマン氏たちの動きに連動していく。</p>

## 【2. 人材育成事業】

事業名	2-(1) 世代交代に伴う事務局体制の充実化
実施日時	2011年4月～継続中
実施場所	CODE事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	数名
実施内容	<p>2013年度より吉椿雅道を事務局長とし、若い世代の積極的なかわりを増やし、その中から次世代の育成も行ってきた。特に、世界的なネットワークへの関与を促進するため、Post-HFA(兵庫行動枠組)の動きに関わるシンポジウムやセミナーがあれば積極的に参加する。その他、必要な知識やスキルを身につけるための研修等への参加を促進する。</p> <p>2月より岡本千明の後任として新しく加わるスタッフ、多田茉莉絵さんやボランティアさんなどの若者向けに寺子屋など勉強会などを開催し、スタッフのスキルアップをはかると共にCODEの理念や活動を伝える。</p>

事業名	2-(2) NGOことはじめ
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	当 NGO スタッフはじめ、学生や若者数十名。
実施内容	<p>① 村井理事による寺子屋(3 回程度)</p> <p>2012 年より開催してきた CODE 寺子屋若者編が全 12 回を終了したが、今年度から新しいスタッフやボランティアもかかわる事から若者を対象に村井理事を講師に 3 回程度の寺子屋を開催し、CODE の理念やこれまでの CODE の活動を伝え、新たな人材育成の機会とする。</p> <p>② JICA や UNOCHA などの国連機関への見学や研修などへの参加も検討し、国際協力を目指す若者の将来の道を模索する。</p> <p>③ 中国・四川やフィリピンなどの事業の一環として現地 NGO との交流や研修に若者に参加してもらう事で人材の育成をはかる。</p>
備考	若干の茶菓子代を計上。会費を徴収して行う場合は計上しない。

事業名	2-(3) ボランティアの日
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	学生や若者数十名
実施内容	<p>ボランティアを呼びかけ、集まって作業を行う日を設定する。より多くの人に、気軽に CODE にかかわっていただくためのきっかけとして実施する。そのかわりの中から次世代の育成も視野に入れる。</p> <p>また、2014 年 3 月に開催した「れーずんの会」を機に若い人たちで作るユース CODE のようなグループを組織し、災害時には学生が関わり、平常時には、外国文化や語学、災害などを学んだり、レーズン販売や勉強会、スタディーツアーなどのイベントの企画などを行う。それらを通して若者が社会参画すると同時に海外の災害や貧困なども学ぶ機会を作り、CODE に継続的に関わってもらうようにする。</p>

事業名	2-(4) 月イチシリーズ「食と国際協力」《新規》
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	一般
実施内容	2014 年 3 月より開催している「れーずんの会」から派生した企画として「食と国際協力」を月 1 回、第 3 木曜日に開催している。これまでにアフガニスタンのレーズンやフィリピンのバナナを食べながら、その国について学び、語る場を作る。災害が起きる前からその



	<p>国の事を知り、身近に感じてもらう。これにより普段の災害救援活動では出会わない方々にもご参加いただき、その中から CODE に積極的に関わる若者を今後、発掘していく。</p> <p>*すでに開催された日程</p> <p>第1回 れーずんの会 (CODE) (2014年3月28日) 参加人数:11名</p> <p>第2回 れーずんの会 (村井理事) (2014年4月25日) 参加人数:15名</p> <p>第3回 フィリピンからまなび(PEPUP+吉椿事務局長) (2014年5月15日) 参加人数:8名</p> <p>*今後の予定:(内容とゲスト)</p> <p>第4回 インドネシアとつながる (JICA 兵庫デスク 中村さん+村井理事) (2014年6月19日)</p> <p>第5回 食から見る日本とアメリカ(ワールドユースジャパン学生+CODE) (2014年7月15日)</p> <p>第6回 青海省チベット高原から (CODE) (2014年8月21日)</p> <p>第7回 ハイチからのたより (シスター須藤+CODE) (2014年9月24日)</p> <p>第8回 イランってどんな国? (奥、ナヒド夫妻+CODE) (2014年10月16日)</p> <p>第9回 中国四川省の風土と食 (CODE) (2014年11月20日)</p>
--	---

## 【3. 災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	3-(1) 災害情報サイト(CODE World Voice)の運営
実施日時	随時(2002年からの継続事業)
実施場所	SOHO 形式や当センターなど
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて
実施内容	<p>当初より「被災地の市民の暮らしを知ることを通じて、防災や平和への意識向上を図る」ことが目的である。これまで CODE のプロジェクト地をよりよく知ってもらうため、また、災害時の情報収集のために、随時 Reliefweb(UNOCHA が運営する、支援機関のレポート投稿サイト)やその他メディアからの翻訳を CODE ウェブサイトで紹介してきた。今年度も、災害発生時の情報発信の際などに引き続き活用していく。2013年11月のフィリピン台風災害以降、英語の翻訳ボランティアさんの参加が増えた。これを今後も維持し、英語発信につなげていく。</p>

## 【4. ネットワーク構築事業】

事業名	4-(1) 《関係機関からの受託事業》 神戸学院大学
実施日時	4月から7月まで、毎週木曜日第3限
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス、その他
受益対象者の範囲	40名

圏及び予定人数	未定
実施内容	<p>① 「現代社会学部」(名称変更)の前期授業企画および講師派遣 CODE とのコラボレーション事業という位置付けで、5 年目となる本年度も継続して神戸学院大学防災・社会貢献ユニットの講義の講師派遣を下記のスケジュールと講師陣で実施する。受講人数は約 40 名。</p> <p>《内容》</p> <p>4/10(木) 第1回 ガイダンス(浅野壽夫、村井理事)</p> <p>4/17(木) 第2回 阪神淡路大震災とボランティア(村井理事)</p> <p>4/24(木) 第3回 東日本大震災とボランティア(頼政良太)</p> <p>5/1(木) 第4回 CODE 海外災害援助市民センターが担う社会貢献について (吉椿事務局長)</p> <p>5/8(木) 第5回 アフガニスタンと開発援助(村井理事)</p> <p>5/15(木) 第6回 フィリピンの復興から学ぶ(吉椿事務局長)</p> <p>5/22(木) 第7回 災害復興から持続可能な開発プロジェクト (インドネシア・ジョグジャカルタでの取り組み)(浅野壽夫)</p> <p>5/29(木) 第8回 四川大地震と CODE プロジェクト(吉椿事務局長)</p> <p>6/5(木) 第9回 地方分権と被災者主体、市民主体とは?(松本誠)</p> <p>6/12(木) 第10回 農といのちを考える(本野一郎)</p> <p>6/19(木) 第11回 災害時における地域力(織田峰彦)</p> <p>6/26(木) 第12回 災害復興と行政の役割(斎藤富雄)</p> <p>7/3(木) 第13回 災害とジェンダー(斉藤容子)</p> <p>7/10(木) 第14回 振り返り(江田英里香、村井理事)</p> <p>7/17(木) 第15回 まとめ(江田英里香、村井理事)</p> <p>② インターンシップ受け入れ 昨年同様に依頼があればインターンを受け入れる。</p> <p>③ フィールド学習への協力 インドネシア・ジャワ島中部地震被災地における海外研修(1-(5)参照)などのフィールド学習にも引き続き積極的に協力する。</p>

事業名	4-(2)《関係機関からの受託事業》 関西 NGO 協議会
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>① 講師派遣 前年度と同様、派遣依頼があれば行う。</p> <p>・6月21日 JICA PARTNER「国際協力人材セミナーin 関西」で講演(吉椿事務局長)</p> <p>・9月3日 帝塚山学院大学集中講義(吉椿事務局長)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2015年1月 龍谷大学国際特別講義(吉椿事務局長)</li> <li>② NGO-JICA 協議会および提言専門委員会への参加。 前年度に引き続き委員を担う。(村井理事)</li> <li>③ その他必要に応じて行う。</li> </ul>
--	---

事業名	4-(3) 国内のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① TELL-NETフォーラム2014への参加(今年度は中国・四川省でフォーラムを開催する)</li> <li>② コープこうべが実施されている地区の勉強会等への報告者派遣など 5月30日 コープ活動サポートセンター兵庫主催の学習会で講義(吉椿事務局長) 6月11日 第94期通常総代会に出席(吉椿事務局長)</li> <li>③ 2013年11月に発生したフィリピン台風災害を機につながった国内の支援者、寄付者とのネットワークの関係促進</li> <li>④ フィリピン災害を機に協働している、若者を中心にした東日本大震災の支援団体「ワカモノヂカラ」との関係を今後も大切にしていく。</li> <li>⑤ JPF や JANIC などのネットワークとも引き続き連携していく。</li> <li>⑥ JICA と神戸の防災関係団体との懇親会に参加(6月2日 吉椿事務局長、上野)</li> </ul>

事業名	4-(4) 海外のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 2013年11月に発生したフィリピン台風災害を機にセブ島で活動するNGOネットワーク、ABAG CENTRAL VISAYASとの連携を今後も深めていく。</li> <li>② 2008年中国四川地震以降、つながりのある5.12民間救助サービスセンターや生命環懐協会など現地NGOのネットワークとの関係を促進させる。</li> </ul>

	<p>③ NPO 法人ワールドユースジャパン(札幌)の研修事業(7月14日～18日) 国際交流事業を行う団体からの受託事業として、7月に神戸での北米の高校生の研修の企画、実施を行う。CODEの活動だけでなく、BOKOMI見学や長田の街歩きなどを行い、KOBEの経験を伝える。</p> <p>④ インドネシアの若者で作る防災や災害を学ぶグループ、BDSG(Bandung Disaster Study Group)との連携を深めていく。</p>
--	---

## 【5.「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	5-(1) CODE 寺子屋学習会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般
実施内容	<p>① 室崎副代表理事による寺子屋(3回程度) 神戸近郊の NGO/NPO や研究者との関係を作り、共に学ぶ場を作るために室崎副代表理事に NGO、ボランティア、復興などについて講義してもらう。(7月以降を予定)</p> <p>②その他</p>

## 【6.「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	6-(1) 賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所、その他
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>引き続き会員数拡大のため、有力な支援者 700 名に対してニュースレターを送付する。また、2013 年度の賛助会員約 130 名・団体には継続して会員になっていただけるよう、より新鮮な情報を定期的に発信していく。</p> <p>フィリピン台風災害やチリ・高知被災地交流を機につながった方々を今後、賛助会員など継続的な CODE の支援者にもなってもらえるような働きかけを行う。(CODE レター発送など) また、2013 年度より開始したクレジット寄付が、フィリピン台風災害後には 80 件に及んだ。しかし、CANPAN の月額基本料金が 1000 円だったものが、2015 年 1 月より 3800 円に上がる事により、他の方法への移行を理事会等で検討する。</p>

事業名	6-(2) 救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地

受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>・報告会:アフガニスタン、ハイチ、フィリピンなどの進行中のプロジェクトの報告会を年に1回行う。</p> <p>*9月23日 シスター須藤をお招きしてハイチの講演と対談 (芹田代表理事 *1-(3)と重掲)</p> <p>*フィリピンのNGOや漁業関係者を招へいする際に報告会を開催する。</p> <p>・講師派遣:引き続き行う。 (予定)</p> <p>5月30日 コープ活動サポートセンター兵庫主催の学習会で講義 (吉椿事務局長 *4-(3)と重掲)</p> <p>5月31日 神戸学院大学 社会貢献学入門で講義(吉椿事務局長)</p> <p>6月21日 JICA PARTNER「国際協力人材セミナーin 関西」で講演(吉椿事務局長)</p> <p>7月12日 神戸学院大学 シンポジウムでパネラー(吉椿事務局長)</p> <p>7月14日～18日 ワールドユースジャパン 北米高校生研修で講義 (村井理事、吉椿事務局長、頼政 *4-(4)と重掲)</p> <p>7月29日 神戸大学 教養言論「阪神・淡路大震災」で講義(吉椿事務局長)</p> <p>8月19日～20日 日本災害看護学会第16回年次大会で講演(吉椿事務局長)</p> <p>9月3日 帝塚山学院大学 集中講義(吉椿事務局長 *4-(2)と重掲)</p> <p>9月26日 明石あかねヶ丘学園で講演(吉椿事務局長)</p> <p>2015年1月 龍谷大学国際特別講義 (吉椿事務局長 *4-(2)と重掲)</p> <p>1月 神戸市立楠高校で講義 (吉椿事務局長)</p>

事業名	6-(3) 機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関紙は年3回発行、 メーリングリスト、インターネットは随時発信(積極的にツイッターの利用を行う)
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	・機関紙は約700通 ・インターネットは不特定多数
実施内容	<p>・機関誌:4月、7月(総会報告のため)、12月(年末寄付募集のため)に発行予定。</p> <p>・メーリングリスト:逐次、災害救援レポートを発信。</p> <p>・ツイッター、FACEBOOK:逐次発信。 災害を忘れないシリーズを今年度も毎月、FBで発信。</p> <p>・ホームページ:現在、新しいものに移行中。英語版も充実させる。</p>

## 【7. その他本会の目的達成の為に必要な事業】

事業名	7-(1) CODE・AID 設立に向けて
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	CODE AID の具体的スタートに向けて、準備会開催などを進めていく。

事業名	7-(2) CODE スタッフへの奨学金制度の継続について
実施日時	随時
実施場所	—
受益対象者の範囲及び予定人数	直接裨益するものは若干名
実施内容	前年度と同様、継続して行う。残高は 269,000 円。

事業名	7-(3)阪神・淡路大震災 20 周年関連事業 <新規>
実施日時	2015 年 1 月
実施場所	神戸市内
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	震災 20 周年記念事業として、コープこうべの主催する企画の一部(分科会)を CODE が担当する予定。

事業名	7-(4)第 3 回国連防災世界会議 <新規>
実施日時	2015 年 3 月 14 日～18 日
実施場所	宮城県仙台市
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	2005 年に神戸で開催された第 2 回国連世界防災会議から 10 年を経て、東日本大震災の被災地である仙台市で第 3 回が開催される。ポスト HFA(兵庫行動枠組み)の評価、検証、今後の世界における防災の動向を知り、CODE の役割を再確認するためにも参加する。  ・1 月 10 日 2015 国連防災世界会議日本 CSO ネットワーク設立総会に参加 (村井理事)